

[成果情報名]長い新梢の腋花芽を利用すると、クラブリンゴの開花期間を延長できる

[要約] リンゴの受粉専用品種としてクラブリンゴを用いる場合、「Ormiston Roy」、  
「Makamik」、「Redbud」については、枝長が長い新梢を用いることにより、開花期間を  
1～3日程度延長することができる。

[キーワード]受粉専用品種、クラブリンゴ、開花時期、腋花芽着生率

[担当]宮城農園研・園芸栽培部・果樹チーム

[連絡先]電話 022-383-8132

[区分]東北農業・果樹

[分類]研究・参考

-----  
[背景・ねらい]

受粉専用クラブリンゴは、経済品種の開花期間に前年安定して合致することが求められる。このため、腋花芽着生性、隔年性並びに枝の角度や樹勢が腋花芽着生性に及ぼす影響を検討し、クラブリンゴの開花期間の延長を図るための新梢管理法を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「Ormiston Roy」、「Redbud」の頂芽又は腋花芽の満開日は「ふじ」(マルバカイドウ台)に一致する。「Makamik」の開花日は「ふじ」(マルバカイドウ台)に対しては早く、年次により「ふじ」の頂芽中心花満開日には「Makamik」の開花は終期を迎えることがある。(表1、図1)。
2. 「ふじ」とクラブリンゴの満開日の差は年次により変動する(表1)。
3. いずれの品種も長さが80cm以上に伸びた枝に着生した腋花芽の開花期は、これより短い枝の腋花芽に対して遅れる傾向にある(表2)。
4. これら3品種の腋花芽の着生については、調査期間を通じて67%以上と高い腋花芽率を維持し、腋花芽における隔年結果性は認められない(データは省略)。
5. 「Ormiston Roy」、「Makamik」、「Redbud」は、斜立した枝、水平の枝とも腋花芽の着生率が高く、10cm当たりの花芽と側花は多く着生する(表3)。

[成果の活用面・留意点]

1. 強い切り返し剪定を行う場合は、品種により腋花芽着生率が低下することがあるので注意する。
2. 「Redbud」はやや枝長が短い、斜立した枝が多いので、剪定方法などにより省スペースな樹形構成が可能であると考えられる。
3. 耕種概要  
(1) クラブリンゴは全品種とも、台木はマルバカイドウ、2000年接ぎ木、2002年3月に定植した。薬剤散布、施肥、雑草管理などはリンゴ食用品種と同様とした。  
(2) 供試樹に対する摘果作業は実施していない。剪定は間引き剪定を主体とした。

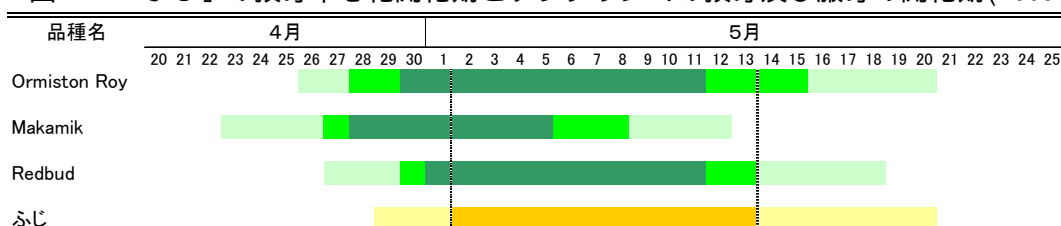
[具体的データ]

表1 「ふじ」の中心花満開日に対するクラブリンゴの満開日の推移(2005~2008年)

		2005年	2006年	2007年	2008年
Ormiston Roy	頂花芽側花満開	-2	-2	-6	-1
	腋花芽側花満開	0	1	-2	1
Makamik	頂花芽側花満開	-2	-3	-8	-4
	腋花芽側花満開	-2	-2	-6	-2
Redbud	頂花芽側花満開	-1	-2	-4	-1
	腋花芽側花満開	0	2	-2	0

(参考:ふじ中心花満開) 5月3日 5月8日 5月6日 5月1日

図1 「ふじ」の頂芽中心花開花期とクラブリンゴの頂芽及び腋芽の開花期(2005~2008年)



注1)色の薄い部分:頂芽中心花の最早開花始めから、腋芽側花の最遅開花終了日  
 注2)中間色の部分:頂芽中心花の平均開花始めから、腋芽側花の平均開花終了日  
 注3)色の濃い部分:頂芽の開花期間と腋花芽の開花期間の重なった期間  
 注4)「ふじ」については、頂芽の開花期間について表示

表2 クラブリンゴの枝長別の腋花芽の開花期(2005年)

品種名	腋芽中心花(80cm未満の枝長)			腋芽側花(80cm未満の枝長)		
	始	満開	終	始	満開	終
Ormiston Roy	4/29	5/1	5/14	4/30	5/3	5/15
Makamik	4/28	4/30	5/4	4/29	5/1	5/5
Redbud	5/1	5/2	5/13	5/2	5/3	5/19

品種名	腋芽中心花(80cm以上の枝長)			腋芽側花(80cm以上の枝長)		
	始	満開	終	始	満開	終
Ormiston Roy	4/29	5/1	5/16	5/1	5/4	5/17
Makamik	4/29	5/1	5/5	4/29	5/3	5/7
Redbud	5/2	5/4	5/14	5/4	5/6	5/15

表3 新梢の発生角度がクラブリンゴの腋花芽の発生に及ぼす影響(2005年)

品種名	枝長 (cm)	枝角度	節数 (個)	花芽数 (個)	腋花芽率 (%)	10cm当り の花芽数 (個)	平均花数
							(個/花そう)
Ormiston Roy	114.4	斜立	45.7	45.0	98.4	3.9	5.9
	70.2	水平	30.0	29.7	99.0	4.2	6.4
Makamik	81.8	斜立	23.7	19.3	81.9	2.4	5.6
	56.8	水平	17.7	15.7	88.9	2.8	5.2
Redbud	89.8	斜立	30.0	25.0	83.0	2.8	5.5
	25.5	水平	13.3	11.0	82.2	4.4	5.1

[その他]

研究課題名:リンゴ品種の単植化に向けた新しい結実安定法の開発

予算区分:実用技術

研究期間:2004~2008年度

研究担当者:鶴飼真澄、大沼欣生、高嶋名世瑠、菅原怜、池田裕章、菊地秀喜、安江恵美子